

令和5年度シラバス(芸術)

学番21 県立阿賀黎明高等学校

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2	学年(コース)	1学年(地域探究コース)
使用教科書	教育出版「書道Ⅰ」				
副教材等	なし				

1 目標

(1)	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。(「知識及び技能」の習得)
(2)	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることができるようにする。(「思考力、判断力、表現力等」の育成)
(3)	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとらえて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(「学びに向かう力、人間性等」の涵養)

2 指導計画

月	単元	教材	学習活動(指導内容)	時間
4		オリエンテーション	・書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。 ・用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。	2
		書的美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材—文房四宝— 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう	・小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習する。	4
5		書体の変遷 拓本と碑について 拓本を採ってみよう	・漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解する。	8
6		一 楷書の学習 1 さまざまな楷書 2 唐の四大家 ■九成宮醜泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑 3 北魏の書 ■牛橛造像記／鄭義下碑	・さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考える。 ・漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 ・代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの理解する。 ・各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとらえて、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につける。	8
7	漢字の書の学習	二 行書の学習 1 さまざまな行書 ■行書の特徴 2 王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 唐の太宗と蘭亭序 ■祭姪稿 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書	・さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえ、行書の特徴について理解する。 ・代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとらえて、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につける。	6
		3 日本の行書 ■風信帖 ■三筆、三跡の書 身のまわりで見られるさまざまな書	・身のまわりで見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにする。	2
8		三 篆書の学習 ■泰山刻石 四 篆刻・刻字の学習 1 篆刻の学習 2 刻字の学習 五 隸書の学習 ■曹全碑 ■居延漢簡 六 草書の学習 ■書譜 漢字の書の制作、作品の形式や用具・用材を工夫して表現してみよう、書の鑑賞形式、漢字の書の鑑賞、身のまわりの書	・篆書、隸書、草書の学習については、生徒の特性等を考慮して学習します。また、篆刻・刻字については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにする。 ・篆書の学習は篆刻と関連づけて指導することで、学習の幅を広げ深めることができる。隸書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深めることができる。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにつながるが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにしての理解を深めることにつながるが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するように漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習する。 ・書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身のまわりの書について理解を深め、生活や社会における漢字の書の広がりにもふれる。	6
10	二 仮名の書の学習	1 仮名の世界へようこそ ■仮名の成立と発達 ■仮名の種類 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 ■基本的な筆使い ■平仮名 ■変体仮名 ■連綿	・身のまわりで見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにする。 ・我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ取り、その成立過程や仮名の種類、字源について理解する。 ・仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いを学ぶ。 ・平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得する。	8
		2 蓬萊切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き 5 仮名の書の制作 6 全体構成の工夫 7 大字による表現と鑑賞 料紙の美、料紙を作ってみよう	・上代様の仮名の鑑賞をとらえて、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的にとらえ、作品の価値やその根拠について考える。また、臨書活動をとらえて、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につける。 ・仮名の書の制作(散らし書き)をとらえて、意図に基づく構想と表現の工夫について学習する。	8
12	三 漢字仮名交じりの書の学習	1 言葉表現する 2 感動や思いを表現しよう ■作品の表現意図を考える ■名筆に学ぶ表現の工夫 ■用具・用材の工夫 ■全体構成の工夫 ■作品の完成(鑑賞会を行う)	・仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深める。 ・これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行う。	6
1	漢字仮名交じりの書の学習	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷 書式の教室 書道史略年表 博物館や美術館に行ってみよう 日本・中国書道史参考地図 索引	・自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定する。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もある。 ・意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現する。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていく。他者との意見交換をとらえて、表現を練り上げ作品を完成させていく。	4
3			・漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷について理解を深める。	2

3 評価の観点及びその趣旨と評価方法

観点	(1) 知識・技能(40%)	(2) 思考・判断・表現(40%)	(3)主体的に学習に取り組む態度(20%)
趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・作品 ・学習の記録 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品 ・ふりかえりシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 ・鑑賞カード などから、評価します。

4 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。
- ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道I」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。